

令和5年度大分県学力定着状況調査 結果総括

令和5年度大分県学力定着状況調査結果総括＜小学校5年＞

国語				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値
教科の正答率	全体	72.1	71.5	67.3	問題の内容別正答率	話し合いの内容を読み取る	73.8	72.4	71.3	＜結果概況＞ ○教科の正答率は、知識、活用ともに県平均を上回った。 ○領域別正答率は、「書くこと」で県平均を下回ったほかは、県平均を上回った。 ＜課題と対策＞ ○問題の内容別に県平均と比較すると、「漢字を読む」「物語の内ようを読み取る」「学校を紹介する新聞を作る」が県平均を下回った。問題別に見ると、「話し合いで出た意見をもとに、新聞記事の一文を書く」問題は、正答率が46.3%、無解答率が9.8%であった。話し合いの様子の中から、解答に必要な複数の情報を取り出し、それらを関連付けて条件にあった文を書く力に課題があることから、「書くこと」の指導事項について、低学年から系統性をもって資質・能力を育成することが大切である。			
	知識	76.3	75.4	73.1		漢字を読む	92.2	93.1	90.0				
	活用	62.7	62.7	54.4		漢字を書く	70.9	68.4	68.3				
領域別正答率	言葉の特徴や使い方	73.4	72.5	71.5		言葉の学習	70.4	69.2	66.0				
	情報の扱い方	70.8	70.1	56.7		物語の内容を読み取る	70.3	71.0	68.3				
	我が国の言語文化	86.1	82.8	70.0		説明文の内容を読み取る	74.3	72.5	68.3				
	話すこと・聞くこと	73.8	72.4	71.7		学校を紹介する新聞を作る	54.8	58.1	50.0				
	書くこと	63.1	63.4	53.3		文章を書く	67.2	66.1	55.0				
	読むこと	72.3	71.7	68.3									

算数				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値
教科の正答率	全体	68.3	68.1	64.8	問題の内容別正答率	億と兆・億数の表し方	67.9	67.4	63.0	＜結果概況＞ ○教科の正答率は、知識、活用ともに県平均を上回った。 ○領域別正答率は、「データの活用」で県平均を下回ったほかは県平均を上回った。 ＜課題と対策＞ ○問題の内容別に県平均と比較すると、10個の内容中、6個の内容で県平均を上回り、特に定着・習熟に向けた指導の成果が出たといえる。一方「面積」「角の大きさ」「変わり方調べ」「折れ線グラフと表」では県平均を下回った。特に「切り捨てて計算した結果が、目的に合う理由を説明する」問題は、正答率35.9%、無解答率19.6%と課題が残った。数の大きさを見積もる学習については、日常生活場面と関連づけることが重要であり、その際、切り上げ、切り捨て、四捨五入の方法を習得させるとともに、目的に応じた使い分けができるように指導することが必要になる。また、説明する力を付けるためにも、判断した根拠を明らかにしながら説明したり、説明の過不足を児童同士で補う活動をしたりするなどして論理的な説明の組み立てに慣れさせる必要がある。			
	知識	71.4	71.4	69.3		わり算・計算のきまり	65.8	65.4	60.0				
	活用	62.5	61.8	56.4		小数	75.4	75.0	73.8				
領域別正答率	数と計算	71.6	71.0	66.8		分数	74.3	74.2	73.3				
	図形	62.2	62.1	60.6		いろいろな形	71.2	69.8	66.7				
	変化と関係	74.7	74.3	68.0		面積	47.5	48.1	45.0				
	データの活用	62.9	63.4	60.0		角の大きさ	70.7	71.5	75.0				
						変わり方調べ	70.2	71.6	70.0				
						簡単な場合についての割合	77.8	76.2	66.7				
						折れ線グラフと表	62.9	63.4	60.0				

理科				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値
教科の正答率	全体	67.6	67.7	65.2	問題の内容別正答率	1年間の植物の成長	89.7	90.1	82.5	＜結果概況＞ ○教科の正答率は、活用が県平均を上回った。 ○領域別正答率は、「物質・エネルギー」が県平均を上回った。 ＜課題と対策＞ ○問題の内容別に県平均と比較すると、「1年間の植物の成長」「1年間の動物のようす」「物の体積と力」「物の体積と温度」「雨水のゆけと地面のようす」「自然の中の水」「物のあたたまり方」が県平均を下回った。問題別に見ると、「乾電池を直列つなぎにすると、紙コップが上下する動きを速くすることができる」と考えた理由を、実験結果にふれて記述する問題は、正答率が25.1%、無解答率15.9%であった。実験をする際に目的をもたせること、実験結果からどのようなことが考えられるのか自分の言葉で表現することを大切に授業を繰り返す必要がある。また、「ナナホシテントウとオオカマキリの様子からどの季節かを答える」問題は、正答率が49.8%であった。動植物の様子を季節の特徴と合わせた観察活動を行う等、体験活動と表現活動を関連させていくことが大切である。			
	知識	70.5	71.1	69.1		1年間の動物のようす	66.2	68.7	75.0				
	活用	59.7	58.6	54.4		天気の様子と気温	61.6	61.3	52.5				
領域別正答率	物質・エネルギー	62.2	62.1	61.3		電気のはたらき	61.2	60.2	56.7				
	生命・地球	73.0	73.4	69.0		動物の体のつくりと運動	71.3	70.7	62.5				
						月と星	66.2	65.8	61.7				
						物の体積と力	67.9	68.2	67.5				
						物の体積と温度	69.1	69.5	70.0				
						雨水のゆけと地面のようす	92.9	93.5	85.0				
						水のすがた	60.3	59.0	56.3				
				自然の中の水	66.2	67.8	67.5						
				物のあたたまり方	55.1	56.5	60.0						

令和5年度大分県学力定着状況調査結果総括〈中学校2年〉

国語				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値	<結果概況> ○教科の正答率は、活用が県平均を上回った。 ○領域別正答率は、「我が国の言語文化」「話すこと・聞くこと」「書くこと」で県平均を上回った。 <課題と対策> ○問題の内容別に県平均と比較すると、「漢字を書く」「文法・語句に関する事項」「文学的な文章内容を読み取る」「報告する文章を書く」が県平均を下回った。漢字・文法・語句については、習得を目指した時間を計画的に設定するとともに、同音異義等、漢字のもつ特色についても指導する必要がある。問題別に見ると、「報告する文章の下書きを、資料をもとにして3つの条件にそって書き直す」問題では、正答率が44.5%、無回答率が22.3%であった。日常の授業において、文章や図表の中から必要な情報を取り出し、それらの関連や結び付きを考えながら自分の考えを書くといった言語活動を取り入れ、自分の考えを表現する力を高めていくことが大切である。
教科の正答率	全体	66.9	66.5	61.3	話し合いの内容を聞き取る	69.0	66.7	66.7	漢字を読む	95.5	92.9	85.0		
領域別正答率	知識	70.9	71.1	66.5	漢字を書く	49.8	54.8	51.7	文法・語句に関する事項	68.9	70.4	66.3		
	活用	59.3	58.0	51.7	説明的な文章の内容を読み取る	58.0	57.1	51.7	文学的な文章内容を読み取る	65.9	67.2	63.3		
	言葉の特徴や使い方	68.6	70.2	65.6	報告する文章を書く	55.5	56.5	50.0	文章を書く	70.5	65.6	56.3		
	情報の扱い方	45.4	46.3	40.0										
	我が国の言語文化	94.4	92.6	85.0										
	話すこと・聞くこと	69.0	66.7	66.7										
書くこと	64.1	61.7	53.6											
読むこと	62.0	62.2	57.5											

社会				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値	<結果概況> ○教科の正答率は、知識、活用ともに県平均を下回った。 ○領域別正答率は、「地理」の領域で県平均を上回った。 <課題と対策> ○問題の内容別に県平均と比較すると、正答率は「日本の姿」「世界各地の人々の生活と環境」で県平均を上回った。しかし、そのほかの内容では県平均を下回っており、「中世の日本」では県平均と5.2ポイントの差がある。特に、「鎌倉幕府の仕組みについて複数の資料をもとに判断する」問題は、正答率28.1%、無解答率17.8%と課題が残った。例えば「①複数の資料を読み取る(個人)②複数の資料から共通点を見出す(個人)③共通点と既習内容を結び付けて考察する(個人→班)④考察したことを適切に文章で表現する」等の活動をする中で、情報を取り出し、考え、表現する力を身に付けさせたい。日常の授業の中で、取り出した情報等を関連付けて考察する指導を、生徒の実態に合わせて進めていく必要がある。
教科の正答率	全体	50.8	52.6	51.5	世界の姿	50.4	50.9	50.0	日本の姿	49.6	48.4	46.3		
領域別正答率	知識	53.8	55.2	53.8	世界各地の人々の生活と環境	69.9	69.8	66.3	世界の諸地域	52.9	53.6	52.0		
	活用	43.9	46.6	46.1	縄文時代～古墳時代	47.9	51.7	53.3	飛鳥時代～平安時代	52.8	54.9	52.0		
	地理	55.8	55.8	53.8	中世の日本	37.3	42.5	44.2						
	歴史	45.1	48.9	48.9										

数学				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値	<結果概況> ○教科の正答率は、知識、活用ともに県平均を下回った。 ○領域別正答率は、「図形」「関数」で県平均を上回った。 <課題と対策> ○問題の内容別に県平均と比較すると、「数と式」「データの活用」が県平均を下回った。問題別に見ると、「先に出発した弟を兄が追いつけ、弟に追いつくまでの時間を求める方程式をつくる」問題の正答率が19.7%、無解答率が29.5%であった。日常の授業において、文章だけで問題場面を捉えさせるのではなく、図や表を用いて問題を可視化することが大切である。そして、生徒が必要に応じて、線分図や数直線、表などを作成して問題場面を読み解く力を伸ばしていくことが大切である。また、そのほかの「説明する」問題も無解答率が20%を超えている傾向があることから、「①根拠となる考えを示し方針を明確にする②取り出した情報を整理し計算等を行う③考えにつながる計算や説明を行う④答え(考え)を導き出す」といった「説明の基本形」等を活用し、見通しを共有した上で説明活動を取り入れていく必要がある。
教科の正答率	全体	52.3	54.0	55.0	正の数・負の数	56.0	58.9	61.0	文字式	65.7	68.0	62.5		
領域別正答率	知識	59.6	60.3	59.8	1次方程式	52.7	53.4	55.0	比例・反比例	45.3	44.3	44.2		
	活用	31.3	35.7	41.3	平面図形	40.7	40.7	45.0	空間図形	64.3	64.3	63.3		
	数と式	58.4	60.5	60.0	データの分布の傾向	36.2	42.7	50.0						
	図形	58.4	58.4	58.8										
	関数	45.3	44.3	44.2										
	データの活用	36.2	42.7	50.0										

理科				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値	<結果概況> ○教科の正答率は、知識、活用ともに県平均を上回った。 ○領域別正答率は、全て県平均を上回った。 <課題と対策> ○問題の内容別に県平均と比較すると、「気体の性質」「地層」「地震」が県平均を下回った。問題別に見ると、「ミョウバンを使って再結晶の実験を行い、その結果からマグマの冷え方と火成岩のつくりにはどのような関係があるのかを説明する」問題は正答率が20.1%、無解答率が27.2%であった。モデル実験においては、自然現象の何とモデル実験の何が対応しているのかしっかりと理解をさせてから実験を行うことが大切である。そして、実験結果をもとに、考察する時間を十分に確保することを大切にしたい。ワークシートの穴埋めではなく、考察したことや結論を自分の言葉で論理的に表現することが大切である。
教科の正答率	全体	58.0	56.1	55.1	植物の分類	78.0	76.0	71.0	動物の分類	78.1	73.8	71.7		
領域別正答率	知識	65.0	62.9	60.0	身の回りの物質とその性質	68.1	67.3	65.0	気体の性質	68.5	70.1	72.5		
	活用	43.2	41.9	45.0	水溶液の性質	65.2	59.3	53.8	物質の状態変化	52.5	52.3	48.3		
	エネルギー	48.3	46.4	48.1	光の性質	33.7	31.7	35.0	音の性質	67.6	65.0	65.0		
	粒子	62.9	60.8	57.7	力の性質	50.0	48.7	50.0	火山	32.5	29.0	35.0		
	生命	78.1	75.2	71.3	地層	33.1	33.9	36.7	地震	52.2	53.1	52.5		
	地球	38.4	38.0	40.7										

英語				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値	<結果概況> ○教科の正答率は、知識、活用ともに県平均を上回った。 ○領域別正答率は、全ての領域で県平均を上回った。 <課題と対策> ○問題の内容別に県平均と比較すると、「3文以上の英作文」で県平均を4.9ポイント上回り定着・習熟に向けた取組の成果が出たといえる。一方、「リスニング(さまざまな英文の聞き取り)」「語形・語法の知識・理解」「単語の並べ替えによる英作文」が県平均を下回った。特に、「メールを読み、その要点を捉えて英文を完成させる」問題は、正答率10.9%、無解答率50.1%と課題が残った。まとものある文章から要点を把握するとともに、その内容に基づいて表現することができていないことが考えられる。指導に当たっては、文章全体を読んで大切な部分を捉えさせる活動を促すとともに、文章から取り出した情報をもとに自分の考えを話したり書いたりする等、領域間の統合的な言語活動を工夫する必要がある。
教科の正答率	全体	46.3	45.4	50.3	リスニング(内容理解)	79.7	78.2	80.0	リスニング(対話文の応答)	34.6	33.5	45.0		
領域別正答率	知識	52.4	51.5	54.8	リスニング(さまざまな英文の聞き取り)	56.7	58.4	62.5	語形・語法の知識・理解	46.5	47.6	52.5		
	活用	32.3	31.2	40.0	語彙の知識・理解	75.4	73.3	75.0	さまざまな英文の読み取り	45.2	45.2	50.0		
	聞くこと	54.5	53.9	60.6	長文の読み取り	41.0	39.6	46.3	単語の並べ替えによる英作文	40.3	41.3	45.0		
	読むこと	48.7	48.3	53.2	場面に応じて書く英作文	38.2	35.8	40.0	情報に基づいて書く英作文	35.7	34.9	35.0		
	書くこと	35.6	33.5	37.0	3文以上の英作文	30.5	25.6	31.7						